守貞漫稿

巻 二十三

30
15

別圖

13
19/30
41

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

一〇二八 圖

樂人事歟明

天皇十五年百濟使者来ル樂人施德三斤
季德己麻次季德追奴對德遬陀皆依請代ル
推古天皇二十年百濟人味摩之ク
居櫻井ニ教ニ呉伎舞於ニ少年一
天武天皇十二年正月奏ニ小墾田舞及高麗百濟新羅三国
樂於庭中
天平二年定ニ雅樂寮雜樂生員大唐樂生三十九人不言
夏蕃取捷ニ教習者一百濟樂生二十六人高麗樂生八人新羅
樂生四人並取ニ書蕃捷樂者一度羅樂生六十二人諸縣樂生八人

筑紫楽生二十人並取二楽戸一

同七年天皇御二北松林一覧二騎射一又唐画

楽二垂桧

天長七年七月大納言良岑安世卒去青海波曲本朝楽也

所秘安世所作也

已上国史ニ所載ノ一二也又或日楽ハ大同四年高麗人十人来朝ニテ

傳ヘ之ヲ也　欽明以来既ニ有之

今世ニ京師ノ楽人ハ　朝廷ニ仕ヘ又賀茂神社ニ祭祀ノ用ニ備ル

凡四氏　大臣氏　豊原氏

王氏　山井氏　奈良ノ楽人ハ春日社ノ祭祀ニ備ル凡一

氏狛氏　大坂ノ楽人ハ四天王寺ニ住ス聖徳王ノ祭事ニ備ル是亦一

氏太秦氏　惣テ六氏数家ニ分ル各専ラ五位ノ諸太夫ニ位セリ

已上三所ノ楽人ハ朝廷ノ楽事支ヒニ所祭祀ニハ各互往来シテ其負

ヲ補フ

又古ハ摂住吉ニモ楽人アリテ明神祭祀ニ備ル　今ハ天王寺ノ楽人兼ネ勤ム

又幕府ノ楽人ハ紅葉山御宮等ノ祭祀ニ備フ数家ノ中ニ一二人五位諸

太夫其他ハ皆民無官位因日上京坂南都三所ノ士民ハ祭祀ノ時楽ヲ

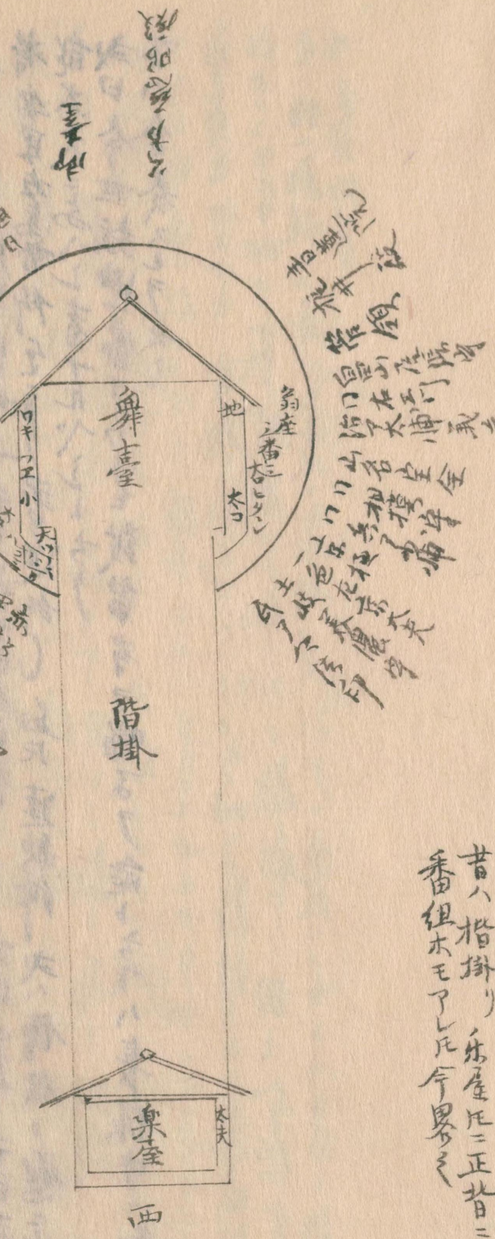
観ルヿヲ得ル已ノ士民ハ罕ニ音楽ヲ聞ヿアリ未観ニ倦楽ニ也又松平

越中守邸中音楽ノ上手アリ

猿楽　又申楽　異邦ニテ散楽ト云　世事散曰　翰林葫蘆編　川勝ニ始ル　推古帝ノ朝　秦ノ
安国ノ政ヲ布クヨツテ　六十六番ノ曲ヲ作リ川勝ニ命ジ紫宸殿ノ
前ニテ大優ノ技ヲ十サイ太子此神楽ノ
名有ク説文ニ申モ又神ニトカリ大歳神
之因ニテ猿楽トス神楽ヲ和ラゲ面白ノ
字沿拾遺云内侍所神楽ノ夜職事家綱ヲ召テ今雪珍ラ
ヤラン申楽仕ヘトアリ源氏乙女ノ巻ニモ　サルガクノトアリさく
字貞丈サルガクノ今俗ノ訓ニザレコトトス同ク
狂言ニトス者即チ古ノ猿楽ノ意ナ太夕戯ト
言ニ特ニ戯謔スル者ヲ京坂ニ於テ茶利トス江戸ニ
道外師トス

[illegible] 春日ノ祭ニ [illegible] 大和ノ楽人ハ　太秦ノ
豊楽院　正月　十月　四月
楽人ハ大和四座高家大和ノ楽人ヲ召テ
今ノ申楽ノ楽人ハ大和
[illegible] 太夫ノ楽人ハ　非月
[illegible] 春ノ

謡又謡ハ東山慈照院殿ニ初テ謡ト云ヒ詩経ノ大序ニ風ハ風也教也
風以動之教以化之ト云ヒ或本ニ謡ノ作者観世太夫世阿弥幸一番弐
番ハ観世小次郎二平三番目ニ汾陽九番目ニ今春ト云ヒ大永四年ニ
善鳳五番目ニ脇師宮増十番ニ金春安東左馬都所望ニ依テ書延ルト云リ
能太夫ニハ今春ト者ナンヘシト云リ
或曰今世謡曲一番ヲ初ルヲ謡始ト云ヒ終ヲ能ト云ヒ八番合奏スルヲ古ト



昔ハ楽屋ニ正背ニアリ
番組ホモアレド今略ス

後花園院寛正五年甲申四月於北河原勧進能

此芝屋随筆曰謡ハ鹿苑院義満公ノ時始リ能ハ東山殿ノ時ニ始ル由シテ予ガ家ニ元録年中ニ少謡シ古キ勧進能ノ舞臺ノ画アリ左ノ如シ

能 世事談曰東山殿ノ時観世観阿弥始テ多ク此観世ハ秦川勝ノ末流ニテ俳優ナレバ猥ニ神楽ヲ和ラゲタル者ナレハスベテノタノ神事ノ能ト云神事ヲ奉ニヨリ大社ニ属ス太神宮ニハ和屋勝田主同ニ坐伊勢住日吉ニハ山楷下坂比叡ニ座近江住賀茂ニハ本座丹波住新坐河内法成寺摂津春日ニハ外山宝生結城観世坂戸金剛圓満井今春ニハ西坐奈良住此坐ハ猶中名誉ヲ得タリ因テ東山殿ヘモ度々召サレトモシ今春ハ春日宝生ハ伊賀国服部ニ住ス故ニ服部ト称ス此四坐今江戸ニモ置ク

観世 宝生 金春 金剛 已上五座ニ

喜多 喜多ノ祖長能ハ泉堺ノ人ニシテ

勧進能 其始ハ寛正年中四月ニ奈良興福寺ニ興行ス
此時催主ハ鞠場ヲ設ケ場ヲ構ヘ行ヒ場ヲ設ケ観者ニ銭ヲ募ルコレヲ勧進トイヒ
又ハ勧化ト云ヒ勧進ハ観世音ヲ祠ル事ニ名ヲ借リ興行ス其男又
ハ女ニ限ラス諸国ニ往テ観ヒ興行ス其始ハ観世音ヲ祠ル事ニ名ヲ借リ興行ス其男又
各衣ヲ脱テコレヲ俳優ニ与フ今ハ世ニ正月二日 幕府ニ於テ観ヒ興行ス其始ハ観
世坐仕ル 将軍及ヒ諸大名 裃ノ上ヲ脱テ与フ後日金ニ換ヘ与フ
諺ニ是ヲ寛正ノ遺ルヽ 今ハ先衣ヲ与ヘ後ニ金ニ代テ与ル事トス
ルノミ寛正一本長禄土手ノ非シ善盛ル成ヒ非ヲ知ラス
今ハ俳優ヲ能役者ト云 其長ヲ太夫ト云 鞠場ハ観者ノ席名
寛正以来断ノミ行ヒテ 景平後念ヒ旨シ江戸勧進能ノ始ハ慶長
十二年二月十二日ヨリ十六日ニ至リ大城北ニ場ヲ構ヘ観世金春行ヒ
其後ハ浅草芝ノ二所両場行ヒヲ更ニ廉日一当時大名事ヲ亜
ヲ扶持シテ養ヒ
通事大夫一世勧進能一度或ハ江戸ニテ行ヒ或ハ京坂ニ於テ行ヒ其
時ノ官許ニヨル歟
嘉永元年神田勧進門ノ外郊地ニ場ヲ構ヘ宝生太夫 行ヒ大名以下士
民群ヲ歓ヒ蓋衣服諸具ノ善美ナル先例ニ十倍ス故ニ観者亦甚多シ
十餘日行ヒ銭二百銭ヲ六文ヲ畳ル乃銀二枚ト云畳場一日
金二両ニ席ヲ場ノ周リニ架ヒ構布ヲ平場ヲ畳ヒテ一席各
大凡一坪ヒ則チ六尺ニ

大坂勧進能ノ場ハ従来難波新地ノ郊外ニアリ蓋行ヒテ稀ニ雖ヒ
其場常ニ在テ敢テ不廃ヒヒ故ニ天保中北野ノ郊外ニ移建ヒ

寛正中勧進ノ時ノ画ヲ見ルニ舞臺ノ正背ニ楽屋アリ長ニ楷掛モ正背シ
今ハ舞臺ノ右ニ楽屋ヲ作ル其中同
其通ニ因テ可知ヒシ舞臺葺大サ略ホ同 楷掛ハ長短不同

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

浄瑠璃　浄瑠璃トハヨ音曲ノ名トスルハ源牛若丸ガ矢矧長者ノ娘浄瑠璃姫ノ物語トスルニ通シタル作リ物語ノ名シ浄瑠璃姫ノ物語故ノ名目シ今モ此音曲ヲ古ハ今俗ノハヤスヨリ語ルトモ浄ルリノヨシ又正書ニハ不載凡衆人ノ口碑ニモ傳ルハ小野ノ於通トモ此物語ヲ偏リ後ニ之結ニ合ニヤタルトモ傳ヲ田信長ノ侍女トス或ハ豊太閤ノ女房シトモ何レヲ是ト定メガタシ還魂紙料ニ等シ千句ヲ引テいくたよのあはれをかけてなどのたまふもかくれなし其他諸説紛々トシテ又宗長日記ニ称四年ノ条ニ小野於通ト云ル八駿ノ宇都山ニテ書ンシ享禄四年生シ年ノ前年シ於通ノ作トハ非ニテ以前ヨリ有ツル故又通ハ信長秀吉ヨリ先ノ女故世事談曰信長ノ侍女小野ノ於通ハ秀吉ノ籠中ニ仕ノ奏シ処作浄ルリ姫ヲコヲ作ル薬師瑠璃光ノ縁十二神ヲ象トリ十二段トシ浄留里語トス平泉物語ハ信濃前司行長ノ作ニテ生佛トス琵琶法師節ヲ付タリ是ハ岩船擦枝節ヲ付タリ則岩船節ヲ付ヲ浄ルリトス其後滝野沢角ノ両擦枝ニ移シ合セテ申節ヲ語ル又六字南無右エ門トス女太夫四條川原ニ於テ建レ慶長ノ比人形ニ合セテ度々ノ受領ヲ戴リコヒレリ京江戸大坂ニ浄留里太夫多ク成ヲ

伊勢島　岩本角太夫　岡本文次　江戸油屋武兵衛　四郎左吉鳥屋次郎吉小笠ノ已ガサマ〳〵ノ流義アリ云

淨瑠璃惣系圖

淨曲家十二段作者
小野氏　通女

淨曲家二絃始祖
澤住撿校
滝野撿校

目貫屋長三郎
薩摩淨雲

薩摩太夫
杉山井後掾
長門掾
櫻井井波掾　和泉太夫
虎屋源太夫
左内

虎屋永閑

大源太夫
小源太夫
永閑太夫

大薩ノ次郎右衛門（下リサツテ）
外紀太夫
土佐掾
子土佐掾
手島市蔵門
ほ土佐掾

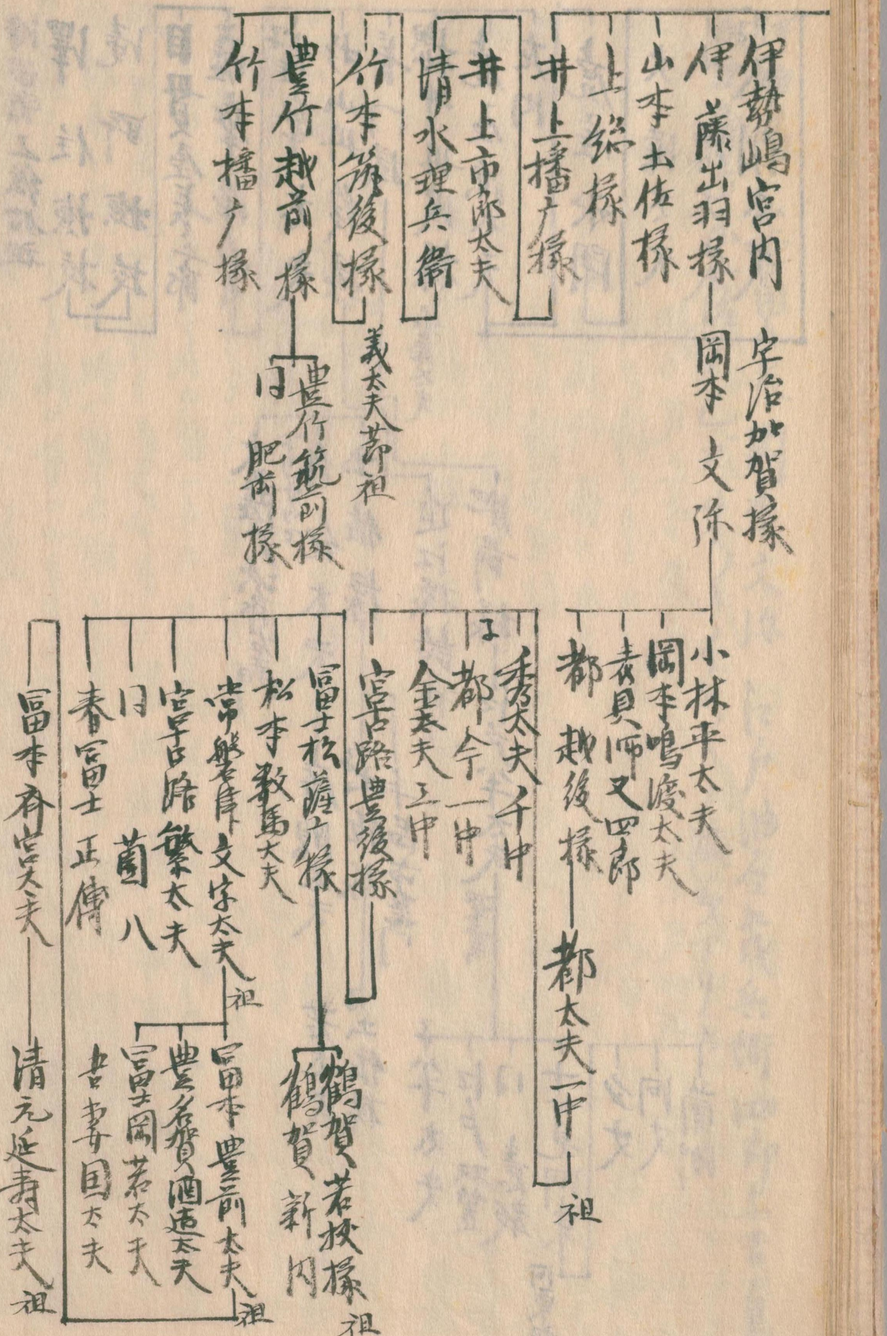
廣瀬太夫
ほ土佐掾

若太夫

江戸半太夫　梁雲
子半太夫
江戸掾
口意教
十寸見河東　河東祖
夕文
河文
蘭洲

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用



操芝居 操ア[illegible]リト謂フ 京師操ノ始リハ下ノ声曲類纂ノ京師操芝居ノ条ニ詳ナリ

[illegible]ノ前後ニ[illegible]ノ操リノ上村日向操ノ傳ニ[illegible]ノ操リノ[illegible]ヲ受領シテモ操ニ梵天建ルヲモ京都ニ元和中ヨリ禁ヤアリシヲモ諱ハス操ノ始祖トシ天正中ニ始リテ国歌舞妓芝居ヨリ古シ

[illegible]ハ薩摩太夫ヲ祖トシ寛永十二年操坐ヲ創スト云ヘトモ於国カタキヨリ後ニ中村坐カラキヨリモ十二年後レタリ

大坂操芝居ノ始ヲ知ラスト雖モ薩摩浄雲ノ子孫庄兵衛者寛文中上京坂ニ上リ行ルヽアレハ左ノ延宝大坂商ノ道頓堀ニ今ノ大西ノ折ニ芝居アリテ今ノ戎橋ヲ操橋トアレハ此時已ニ操坐ナリシヲ推テ知ルヘシ竹本筑後ノ貞享二年ニ道頓堀ニ始テ操芝居ヲ興行スト声曲類纂ニモアルハ筑後カ始テ芝居ヲ興シ[illegible]ヲ操ハ元ヨリ有シヲ[illegible]ヲ今ニ至リ大西ノ事名ヲ筑後坐ト[illegible]ハ是モ故アルコトナリ

昔ハ諸工及ヒ浄曲家専ラ天下一ト自号スル者多シ天和二年 官命ヲ禁止ス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

人形遣 世事談曰芝居ノ人形ノハ始ハ西宮傀儡師ヲ招キテ
舞セシシ江戸小平太トヽモノ名人ニ羅山文集曰鼓吹
弄琴アツテ木偶ノ動ニ應シテ曲節アリ且是ヲ操ニヨリ
枝ヲ踏テ呼者ト木偶ト相傳ル今日所多ノ者
江戸ニ有一ノ傀師小平太ト号ス近世ノ傀儡
アヤツリト訓ス傀儡子テクヽツト訓セリ操
野呂間人形ノ口書ニ江戸和泉太夫カ
古者アリ頭平リ色青黒キ賤気ナル人形ヲ遣フコトヲノ口ヲ人形
トセノ口ヲツノ吟語シ又謙斎古豊ハ賢キ人形ヲ遣ヒ相供ニ賢愚
ノ体ヲ在言セシシ夫ヨリ鉦キヲ早メテ
曽呂間此幾間ナドヽモノ出来タリ享貞曰予カ事ヤ幼年ノ頃ハ
両国橋中村座トヽ茶屋ニテ毎時行ヽヲ見ル淨瑠璃ハ江戸半太夫
節ニテ薩モ一ツアリ実ニ視愚ノ情多キナクトヽ幼年トヽハ文政ノ
半ナルベシ其後廃テ不見ヽ
ヽヤマ人形ハ書ヽ小山次郎兵衛トヽ者女
傾城ノ頼ヲヽヤマトヽヨリ是ヲヽヤマ人形トヽナリ
兵五ハ前ヨリ遊女ヲヽヤマトヽ因テヽヤマヽヽ
小山女人形ヲ能ニ因テ遊女ヲヽヤマトヽハ非ス後無ハ其文意反セリ
橋弁慶ノ巻ノ今東坂俗遊女ヲヽ山トヽ

出遣 口書曰辰松八郎兵衛 始メ惣体人形ヲ遣フ者ハ黒キ頭巾ヲ被リテ己ガ形ヲ見ゼザル様シヤリスルヿハ人形ノ動リニ随ヒ己ガ身モ其振ニ移スモノ故ニ見苦ニキヲ恥ラヒ辰松ハ人形ニ手煩ニ上下ヲ着セ千手ハ着セヌヿニ人形ノ少モ乱ルヽヿナシ古今人形ノ妙手トヽリ辰松幸助ヲ始メ各現在大坂藤井小三郎 近本九八 中村彦作 皆出ヅヤトナスヽ

守貞曰今世事ヲ出遣ヲ行フヿ更ニ奇トセズ加之ニ近年ハ歌舞妓役者ノ早替リ及水芸等ヲ人形遣ヒニ為セ又ハ一瞬ノ間ニ換ヘ変ゼ太夫ニ経ヒキ近ヲ行ヽ早替ハ上下着出遣ニテ水中ヨリセリ出シ又ハ水中ニ在テ人形ヲ遣フヽ

作者 世事談曰浄瑠璃作者ト極テ上座ト云ル者昔ハナシ 誹諧師或ハ遊人ナド尉ニ作レリ暫ト云浄瑠璃作者ト極テ上座ト云ル者ハ近松門左ヱ門ニ始ル此人情当風ヲ悉リ言妙不思議ナル筆ノ働ク元ハ月々ノ狂言ノ趣向ヲ作リ其後大坂ニテ竹本義太夫ト云浄瑠璃ノ一座ヲ興行スルニ仕ヘ本姓杉森氏ニテ武士ノ流シ元禄ノ初頃ハ京都ニ万太夫ト云ル座ノ作者ト云ル者アリ

院本 俗ニ浄瑠璃本ト云シ 刊行ハ明暦ノ頃ヨリ始マル 来ノ印本ヲ蔵スル人アリ 首ニ山城国住人六字南無右門正本 やーはゝ乃ち幻一假月 尾ニ寛永十六年正月吉日上村や吉左衛門開板ト 記シ 繪入ノ細字ニシテ 因ニ古キ浄瑠リノ題号ニマヽリノ姫 阿弥陀胸割 山荘太夫等シ

又謡曲ノ外ニ當假ノ院本 寛永八年ノ物ヲ蔵スル人アリ 今世ニ義太夫節ノ語ル人ハ利本ヨリ寫本ヲ貴トスルシ五行書本ト呼ンテ專ラ代字十二五行ニ大字ノ太夫ノ義太夫其他常盤傳以下ノ浄リ本又江戸ノ唄本ニ書ル一流アリ左ノ如シ

鴨をゞ船しとめどもこれとをらべうれいえん鶯のえぎ恩

又奥浄瑠璃ト仙臺浄リ阪ニ江戸馬喰町永壽堂ニ板アリ「アヲノ胸割 切金冒戎 熊谷箏 六七種アリ 元禄 寶永ノ再刻ト文化前ハ毎春製本ヲ奥州ニ齎リ今ニ彼国ニハ稀ニ語ル者アリトシ云ヘリ 用ヒズ 扇ヲ拍ヲ語ル昔ヨリ如此ト云リ

義太夫節

竹本義太夫ヲ祖トス義太夫後ニ筑後カ掾ヲ受領ス其門人ニ豊竹若太夫後ニ越前カ掾ヲ受領シテ是亦一家ヲナス故ニ今世ニ至リテモ竹本豊竹二流トナリテ其流ノ者ハ此二号ヲ用ヒ京坂今ニ至リ盛ニ行レ此指南スル者百ヲ以テ数フベシ近世ノ印ニモ添布ニテ上京坂ノ太夫三線七寸ヲ以テ又所々ト寄ト云所ニテハ銭ヲ募テ指南シ又所々ト寄ト云所ニテハ銭ヲ募テ指南シ

義太夫節ハ景元ト称スル者無シ又名取リトテモ無シ私ニ竹本或ハ豊竹某太夫ト自称スル故

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

義太夫節ノ三絃ヒキニハ鶴沢ト称ス者多シ

太夫及ビ三絃ヒキニテ指南ヲ又ハ
置ニテ竹某トス鶴某等ヲ以テ名札ヲ出ス

婦女ノ師アリ 竹本某ヲ

河東節 十寸見河東ヲ祖トシ今モ江戸ニ指南スル者在リトモ
多クテハ 京坂ニハ更ニ行レズ

享保二年初テ芝居ニ出勤 市村坐ニテ
松内トス浄留里ヲカタル
享保二年正月中村坐ニテ神楽獅子ヲカタル
月七年正月市川團十郎勤ル
此時浅草広小路本名時宗

元祖河東ハ俗称 河部屋藤右衛門トス十寸見坐ト号ス
酒買ノ巨ヲナシ十寸見ニスエト訓ズ音曲ハ半大夫
ナス又諸藝ヲ能スト云 後ニ門人多キヲ以テ
河東ニ成ノ師トス

河東節ハト 新内三絃ノ名ト 江戸ニ家元モ江
免許ヲ得ザレバ名札ヲ出ニテ公ニ指南ヲ
有ル名取リト称ニテ家元
聴サズ

山彦ヲ以テ称トスル者 河東節ノ三絃ヲ
云ニ依ヲタテザニセントカリ 諸浄留里ニ移リテ
山彦 河良吉時 長トス是ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

一中節　都太夫一中ヲ祖トシ今モ イエモトノ者 都太夫一中トス
世々称ス
宝永七庚寅沢鴻鶴し　正徳五年元祖一中神ヲ江戸ニ下リ市村坐ニ住勤
享保十一年正月市村竹之丞
勤ル　世時都太夫ノ名浄ルりし
男子名取ニハ某太夫某中　婦女ハ一某トス又ハ二都ヲ称ヲ称ス

菅野ヲ苧称スハ某李ニ院ヨリ今ハ尼ニ浄西里ヲモ指南ス

半治ヨリ称スアリ都ヨリ分レテ近年一流ヲナセリ

常磐津節　常磐津文字太夫ヲ祖トシ今ニ至リ世々家元ト称ス
角水仇し
者ハ
元文元年市村坐ニテ
狂言ニ富吉路文字太夫出リ都ノ菊之丞
勤ル神メし　常磐津
男子名取ニハ常磐津某太夫トス　婦女ハ某トス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

冨本蔀　冨本豊前大夫ヲ祖トス豊前ハ文字大夫ノ門人ニ後ニ一家ヲナシ世々家元ハ豊前大夫ヲ称ス

櫻草ニ七本サクラ是ナリ

男名取　冨本某太夫

婦女ハ冨本豊某トス

清元節　清元延寿太夫ヲ祖トス延寿ハ後一家ヲナシ世々延寿太夫ヲ家元トス此ノ家元ハ清元太兵衛ヲ太夫ヲ称ス

男名取　清元某太夫

菱ニ三柏

婦女ハ冨本豊某ノ門人ニ後ニ清元延某トス

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

新内節　鶴賀若狭掾　日新内二人ヲ祖トス　宗元今ニ至リ鶴賀若狭掾ヲ称ス　蓋是ノ二流ヲ鶴賀節ト云ズ新内節ト云

河東六下総ノ仮ト号シ浄曲里ニ係ル諸員未ダ各ノ其家元ノ仮名ヲ用フルノ風俗トナル

富士松　吾妻路　岡本
右鶴賀ヨリ出ヅ各ノ一流ヲナセリ

薩摩浄雲　泉州堺人
常磐津文字太夫　上京都寺町ノ人
都太夫一中

本ノ如ク浄雲里ノ祖トスベキ薩ノ浄雲ハ堺ノ人　宮古路豊後ハ都ノ一中ノ弟子　文字太夫ハ豊後ノ弟子ナルニ依テ一中節ヲ常磐津ト改メ大ニ行レ一中節ヲ絶セシメ　薩ノ浄雲ハ豊後ノ孫弟子ナルニ依テ常磐津ノ一派ヲ分チ京師ニ行ル　今又常磐津ト兼行ル富本節ハ豊後ノ門人ニシテ京師ノ人ニ非ズ　新内節ハ浄雲四世ノ弟子ニ当ル五ウハ浄瑠リトシテハ尽ク京師ニ出ヅ　義太夫ノ一ノミト思ヒレル故ニ今世京坂ノ人ハ浄瑠璃ト云ヘバ義太夫ノ一ノミト思ヒ常磐津　富本　清元　新内等ハ江戸ニテ始レル一中節ハ京師ニ多ク行ル　東ハ江戸ニテ始レル一中節ハ京師ニ多ク行ル　一中節ト云名ヲバ知ル人稀シ

今江戸ニテ行ルハ常磐津　富本　清元ヲ始メ新内　一中節　河東節　義太夫節ノ七ツニシテ　常磐津ト富本ト清元ハ浄瑠リトシテ出ヅ　義太夫節ハ浄瑠リトシテ出ヅレドモ都テ義太夫ト称ス

半太夫節　今モ江戸ニ残リテ一派ヲナセドモ行レズ　馬喰町四丁目ニ住ス一流ヲ称ス

嚊八蔭日前

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

坐頭ノ事　光孝天皇盲人ヲ憐ミテ官ヲ授ケ給ノ古女牛ニ庶ヲ建テ
盲人ノ由緒ナルヲ任セ弐ハ衆七盲ニ官ヲ授ケ給ノ差アリ
世希仁和二年八月廿六日ニ崩ス故ニ今ニ至リ毎秋諸国ノ盲人
上京シテ此帝ノ陵ニ奉ル血氏干蘭盆ヲ奉ル
心欤七月二十二日ヨリ廿七日ニ至リ七日ノ間修ス故ニ今俗ハ坐頃ノ
頃ニトオシ世行ニ四国上京ノ者ヲ四分ノ一ハ面上ルヲ四度十二面ノ者ヲ
勾当十六面ヲ検校トス世官トス検校ヲ謂者ノ極官トス世官ハ久我家ヨリ
授ケラル久我家ハ光孝帝ノ皇孫タル華族ナル故ニ
安貞ヨリ今ハ上京ノ面数ニ拘ズ官金ヲ出サズ授官スルヲ其費ニ准テ金ヲ以テ任官ス故ニ
近考スベシ
今ハ諸国ヨリ上ス官金ヲ以前有官ノ盲者ニ配当スルシ蓋検校以下各
官ニ准シテ配当金差アリ故ニ多ク金ヲ出シテ重官ヲ受ル者ハ又配分
多ク得ル故ニ弐ハ自金ニ非者ハ借金ヲシテ
京都ニ黒川検校ト云ヒ日本惣盲人ノ長タリ

江戸ハ本折坂川一盲橋辺ニ江戸中ノ盲人ノ長ノ宅アリ検校官ノ盲
人ノ先官ヨリハヲ余ヲ与テ惣禄ト云惣禄ノ境地ニ弁ル天ノ相アリ
世惣禄ノ祖ハ奥州ノ産ニテ名ヲ倍一ト云大志アリテ江ノ島弁才天ニ
七日断食ニテ参籠シ其験ニヤ鍼治ニ妙ヲ得大蔵ヲヨリ上検校トシテ
ヨリ歳有ル上常憲スル高ニ合セ惣検校ノ長ニ免許ヲ得テ
京都高盲ト其ノ儀一等ニシテ惣禄ト称シ一盲ノ地ヲ給ヒ弁天ヲ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

書通四楷十六官七ツ二ツ小刻ト云ヒ四楷ト八検校二度ニ度四度匂当三通銭送物掛司ニ寄リ召物始メ大座後ノ大座楯別当正劉当惣別当楯検校正検校惣検校ナド云ヒ平ト楓ニ寄来綿布色々或ハ某又ハ某ト名乗ル官金四両四ツ小刻ト

八十翁物語曰昔八容子招請ノ池之ニ八話鼓太鼓浄留帝小歌ニ後ニ
ニ夫々ノ役者弐八坐頭すゞ子呼ミ子ミ多リ自身トシテ
其藝スルコト絶ク弥ク殊ニ女中ハ猶以テ
密話コトナレ陳々琴ヲ計リシ四
原ニ猶黄トテ遊女一人浄留帝覚ヘ
取集ノ四段覚ヘカタルヲ名誉ノコトト申セシ近年土佐節ハヤ
リテヨリ女中ヲ縦針私言吉ハサヨ置キ浄留帝ニ味線ヲ
弾キ伺ヒ合点行又コトシキ
事ヲ女子ニ絃浄留帝ヲ事ト習フテ
今世益世ルニノ女子ハ七八歳ヨリ学ク母親ハ特ニ
心ヲ学ニテ師家ニ遣ル印ヒハ特ニ小民ノ子ト雖
難セノ夫ヲ以テ武家ニ仕ヘシム武家ニ仕ガレバ良縁ヲ待ツ
リ一藝ヲ学バザレバ武家ニ仕ヘ難シ依テ女子ヲ琴ニ
ノ類ヲ学ブ男子ハ親命ニヨリ是ヲ学ガル者多シ
アルヲ高弦小民ノ子ハ琴ハ勿論ニ絃ヲ学ザル者多シ是
奉ヨリスルヨリナキ故ニ

琴　世事談曰旧事記ニ天詔琴大已貴命持玉ヒシトアリ
和琴ハ河海抄ニ出タリ又弓大張ヲ並ベテ引鳴ス
ヨリ起ルト無名抄ニ云ヒハ天細女命天香弓ヲメテナラベ絃ヲ
鳴ニヨリ故事シ今琵ヲ十三絃ハ仲婦ノ曲唐ノ
筑紫ノ琴ヨリ来ルト云ヒ伴ハ筆ヲ帝ノ時筑紫
十三絃ヲ二十五絃ニ増ス是ヲ
十二ノ調ヲ合セリ初ノ一絃名ノミアリテ
琴ト云覚文ノ頃筑紫国善通寺ノ僧法水ト云者筑紫
学テ妙術ヲ得タリ後ニ東武ニ下リ上永検校城談ニ傳ヲ上永
後ニハ橘ト云ハ橘撿校ヨリ得テ
筑紫ノ系ト称スハ橘ハ卜貞宮ノ頃京ニテノ幸ヲ

江戸ニテハ琴ニ初メ手許シ中許シ奥許シト云アリテ二度ニ免許ス萬坂モ琴ニ免許セシカ其曲ハ幾数ト云ハ全何ト定メ得サルモノハ一曲毎ニ免許ス

三線　サンセント訓ス世事談曰永禄年中琉球ヨリ渡ル其時ハ蛇皮ヲ以テ張ル或人泉州堺ノ盲人中小路ト云モノニトラセタリ其後ト虎沢ト云盲人琴手端千ト云術ヲ引始メ慶長ノ頃澤角ト云盲人琴琵ノ名人ト聞エタリ又浄玉里ト云盲人出テタリコレニノセテ浄ルハ沢角ガ始メシ其後大坂ニ加賀都城秀ノ両人術ヲ弄タリ加賀都ハ柳川検校ト云リ城秀ハ八橋検校ト云リ柳川流ト称スルハ此両検校ガ術ニ異ヲニ線ト号スルハニノ線アルニ依シニノ字ヲ下略ト云ハ同口ノ音ニテハヌガナヲニト云ヒ目録ハモリ口ヒ燈心ハホリコヒ帯ハオビナトノ類シヒトノ何頃何者ノ書初ニ云時ノ多ヲ加ヘテ世間一統ニ三味線ト書ク

江戸二テハ三絃ニ竟敵セシ高級ノ歌ハ錄幾数トモ定アリテ竟新クス是ヲ許物シ

寛政四年本思出草紙ニ二月初午武家町家ノ太鼓ヲ打テハヤセシモ宝暦ヨリ遊興ノ基トナル三絃小鼓ノ拍子ニカイツレカ荷ヒ屋神乃度ヲ拵ヘ屋敷中ヲ奏渡スヨリ大勢集リ又踊リヲ催シ人形ヲツカヒ夫ヨリ素人狂言トテ色々取組芝居ヲ移シ乗込ノ此素人狂言トモノ言詞ヲ覚ヘ毎年ニ招ヨヒ衣裳ヲ拵ヘ数日昔折聲高ニテ初午百ノ興トノミセニハ餘リ本ニ高ナレトテ後ハ常ノ遊ニトモリ是ヨリ能雖子ハ廃リテ素人狂言長唄三絃下方師トナリ踊リヲ回ルヨトヨリ益流布シテノ尚ヨ専用トナリ下方トハ笛太鼓大鼓小鼓三絃ノ手ヲ学ブ此時ヨリ乱舞ヲハ本業ト唱ヘタリ天明中ヨリ長唄廃シ常磐津富本流布ス寛政三年ヨリ権家ヲ乗ラレ家事不取締ノ所為ヲ以テ三絃ハ乞食ノ外素人ナレトモ再用ハル是ヨリ三絃専用ニナル何年ニ

守貞ハ近年又士民ニ絃専用ニナル何年ニ

雑劇纂曰神楽催馬楽東遊雑芸足柄片下神哥里鳥ヲ田哥拵哥辻哥凡俗曲舞今様朗詠等ノ如キハ代々ノ冊子物語ニ載テ又童謡俗謳ハイト古クヨリ有ニテハ小唄ニ非ス老物語ノ川添柳凡ソ七八里ニ至リ小雪冊波ノ小雪土佐日記ノ如キ歌集ノ時ノ申ノ如キ来ヒテモウソ物何ソノ哥数ヘ尽シ難シ雑謡狂言集ニ載ル所ノ歌ニテモ是ヲ古詩ノ餘ニ合ヘリトテノ文字ニ亘ニテ蝶蝶ニ留千葉葉ニ留ノ如キハ傳ラズ永禄ノ比ニ琉球国ヨリ三絃ノ楽器ヲ泉州堺津ニ渡来リシヲ聲者中小路ト云ル人ノ曲節ヲ増テ撰初メ虎沢検校ニ伝検校菅谷ノ節譜ヲ作リ三味線ノ音人本手組端手組ノ片撥等ノ節譜ヲ作リ三味線ニ和シテ唄ヒ傳ヘタリ夫ヨリ出来数多ノ検校勾当出テ当道ノ風俗ヲ改メ新曲ヲ綴リ又一ツニハ浄瑠璃節ヨリ出来勾当ノ長歌端唄ニ分レ始テ

石村虎次両検校 琉久国ヨリ相傳ノ上ニテ手ヲ直シ加ヘテ一作トス
是本手綿リ臨場シトキ正保慶安ノ比ヒニゲ節トテ世ニ行レシヲモ右ノヒニ
ゲ摺リ出シナルベシ

端手組ハ 待ニゴザレ 葛葉 比良屋小松 長崎 下総ホリ 上京鹿子
端手片撥以上七曲ヲ新曲トス 柳川撿校ノ作ナリ

裏組ハ 賤 錦水 青柳 早舟 八幡 羽箏 籌 ナヨシ 以上七曲柳川作
秋曲トハ 掻上 初傳 乱後夜 二傳 七ツ子 三傳
茶碗 六傳

極最上ノ秋曲ハ 堺 七傳 中嶋 八傳 相傳ノ時誓詞神文アリテ一巻ノ書ヲ附属スノ法式アリトカヤ

長唄 佐山市川朝妻小野川名沢生田北沢野川杉岡等ノ撿校ノ作
今世ニテ長唄式ハ生唄トハ物トハ別シ

隆達節 隆達ハ人名ニ堺ノ人初禅僧後還俗シテ小栗ニ貫トナル其
性美声一流ノ小歌ヲ作リ唄ヒテ世ニ行ル

幸斎節

林雪 式輪舌

恵蓼流 尺八ノ曲ヲリ出ル故

保曽利

片撥

投節 貞享元禄比上京師ヨリ流行シ三都ニ行ハル
京都島原ノ名物トス

梛節 ナギ節ハナゲ節ノ古名ニト義経三名羽ハシリ

継節 江戸吉原ノ名物ニ上京島原ノ投節大坂新町ノ離節
江戸吉原ノ継節ヲ合テ三曲三名物トスト標準ニシリ

玉手節 寛文比吉原通ヒノ男達ト侠客ノ事ヲ唄ヒシ小哥ナル由洞房
諸国ニシリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

寛文

籬節　万治中大坂新町ニヲヤキトセル遊女美声ニテ一流ヲ唄ヒ出シ此地ノ名物トナリ元禄宝永盛ニ行レ正徳比廃ストカリ

加賀節　万治寛比行レ勘三郎坐ノ役者数人ニテ作ラセトカリ

潮来節（イタコ）　万治ヨリ宝永ニ至リ流行言葉ニテ具唄ニモ作レルト云傳フ昔ハ甲遠ト云ル侠客ノ唄ヲ由今世カブキ芝居ノ頓機ノ出端ニ唄フ物ヲヌメリトモ

芝垣節（シバガキ）　明暦比盛リ貞享比廃ス

丹前　風呂屋女ノ条ニ載セテ丹前ノ名目詞シ

道念節　京ニ道念山ニ節ト云ル木やりノ音取ヨリ出シ踊ノ拍子ニ能合テ今モ是ヲ良トストカリ

支今節　元禄比支今新左ヱ門ト云ル芝居役者ニ始ル

清搬　スガキト訓ス武家ノ坪垣ノ体ヲ用ル古風ノ条ニ載セ

哥念仏　元禄利行人物割ニ家重ニ業ニ共唄浄瑠リヲモ云

哥祭文　貴祭文ニ節ヲツケ後ハ唄浄瑠リヲモ云トス

小室節　弐人ニテ文政中山王祭礼ニ日本橋通リ町ヨリ葛籠馬ヲ牽セテアリ其時馬士ニ扮スル者白烏帽子ニ千ゼカムリ長キ無袖羽着ニ唄ヲトカリ当時ニ小室節盛ニ流行ス今ハ廃絶ス

小六節　三絃琴一節切ニテ合セ謡フ其唱哥ノ一左ニ

コロリ生ハ西国ヨリ育チヤクワンノソレ誠ニ板武蔵野ニスダケ小六

一節切（ヒトヨギリ）小唄　文禄ヨリ宝永ニ至リ一節切ノ笛流行セリ此小唄ニ線ニモ合スル唱哥短文ニテ数多シ

今世ハ唱句ノ短キ物ヲサヒヤリヤスト云ヘル中古ハ惣テノ唄ノ称ト見ヘタリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

隆達「ものごとの始まりや終わりをよく見定めて
　今日あるさくらの花の明日の朝は散る世かな
　散るものと知りながらも桜花咲くを待つ間の心
　うつろふをとどめかねたる春の山
　かり衣のやわらぎそめし夕べかな
　うつの花咲きにけりとも戸ぼそ
　ふるの世きりり戸ぼそ
　ふるの世きりり戸ぼそ
　ふるの世きりり戸ぼそ

長存「遠ても名がおりのうちの
　ふるさとよ昔だにあよ言ふねば秋
　ふるひるまあげきあぐるも昔を
　うぐいすのふるす泊を過る夜も
　くれそうき世ぞれよ
　あるうとも世ぞれ海ふ昔の
　ふるさとよ昔だにあよ言ふねば秋

恵慕「きみさらばあのいそぐらやいと
　波こ　やれて島磯千鳥水ぐまろれ
　異章三里畢りあへ水ぐまろれ
　ホソ利「ふるさとの世ぞれでとこちらおのつぶさ
　おの世ぞまこふのつぶさ

長章句長短アリ

投節「松のまごの磯辺の昔も千年
　加賀節「ほととぎすのこきひとこえ
　きのぶのこの
　澄り「君ぞこえてまこちぶぞ

異章無長短

長短アリ

芝垣「芝垣もしばしばこゆる雪のうち神ちぐさ
笹垣「屋のうちの二ひら梅咲ふれてそぐちぐさ
あぐのこよ
一茎切「よもやまを雪うちふれし雪そのあしでんやこんの花のふぐきそのんいや
寛文元禄ノ行ハレタル
小歌「ころくつひしく仏の松ころくりろく八中八笛来いまうんまうまのそれ
「名ぬめく流名ぬめくき女ろ流いよい女ろ流此一事ハ今モ七ビ

メリヤス　メリヤス昔ハ無ク今ノ長歌ノ長文ナルヲ長歌ト云ヒ今ノ長唄ハ初名曲高尚ニシテ
露丈等ト共ニ名人アリテヨリ人今世ニ至リ別ニ長唄ヲ創ジ長唄ハ
文ノ長短ヲモズ謡ト自ラ別ナリシ哉其後キヲ利ノ夜須ト云ヒ再ビアリ唄ノ長
弐人リ蔵書ニ宝暦ノ利本ナル女里家寿メリ豊年蔵ト云ヒ又後世ノ
短ヲ撰ハズ歌舞妓事始ニ一部ノ内毎事楽屋ニテ二線ヲ鳴スヲメリヤストヲ
歌舞妓事始ニ一部ノ内毎事楽屋ニテ二線ヲ鳴スヲメリヤストヲ
甲陽軍鑑ニ出タルメリヤスキノ下男ナリス撰ノ
名ニテ合ヲ唄ヲ云ニ非ズ後自ラ唄ト成ニメリヤスト云ヒ後ノ
弐人曰メリヤストヲ名手服ニアリ一名莫大小ト云ヒ此物手ノ大小ヲ撰バズ
ある皆無ク合ヲメリヤスノ唄ハ浄曲里久ビ長唄ト異ニシテ俳優ノ所
作ノ長短ヲ選ハズ自ラ合ヲ故ニメリヤスヲスノ名トス故ト以上二養
雑記ノ意ニ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

大盡舞　此小唄ハ喜保井紅葉作ト云ヘリ古
　　　　　今世ニ至リ流行スル者唯是ノ大盡舞ノミトス

真間哥左ニ

「新吉原の遊女かゝる御殿に入る時ハ三日目に新所揚やと云ふ小唄流行す
ル事ありしが其後又々流行出して下谷金杉山の少将殿と云ふ遊女の名を
借りて作られたるものゝよし此小唄ハ我を今の世に流行せしむるの基本
ナリ

「四海の波もおだやかに御代も治まる目出度さ

「廓の好いお客様を初会裏を返して馴染の客となり又は間夫を持つ迄の
事を云ふ

「それ吉原の四季を詠めんに春は花見に二月や三月の比ハ仲の町で
も茶屋でも総て花をとりて誉られんと思ふ心より花の下にて
の新町ぶりにて誉られんと思ふ心より花の下にて
「扨も其の好いお客様の御帰りの時は俄かに雨の降るよ
うにも仕掛けをなしてお客様を留めんとするなり
「扨おその好いお客様の御帰りに雨の降るやう

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

佃節　天保皆り改式ハ天保ヨり古キ頃ト
名物トシ粗不易ニ似テ今ニ至セス石
唄ニハ其弁自ラ趣走マトヲ叙繁絞シ
「ふけや川ぞゑろんよまぐれ井のふくろの顔見るくや
追書或書ニ隆達ニ頓智アリテ何ニモアレ顕ヲ
堂上ヘモ御ヘテ或年　大内ヘ召ル坂ニモ
ハニ吹ルボトナリ加ヤマテアリ止ケリ邸アリ
ふけよ山ぞゑろんよまぐれ中の上臈の顔見ル
唱哥ハ是ヲ聊ヤ作リ又ハ古ヘ有ケリ
佃節ハ天保皆り改式ハ天保ヨり古キ頃ト
名物トシ粗不易ニ似テ今ニ至セス石
唄ニハ其弁自ラ趣走マトヲ叙繁絞シ
「ふけや川ぞゑろんよまぐれ井のふくろの顔見るくや
追書或書ニ隆達ニ頓智アリテ何ニモアレ顕ヲ
堂上ヘモ御ヘテ或年　大内ヘ召ル坂ニモ
ハニ吹ルボトナリ加ヤマテアリ止ケリ邸アリ
ふけよ山ぞゑろんよまぐれ中の上臈の顔見ル
唱哥ハ是ヲ聊ヤ作リ又ハ古ヘ有ケリ
佃節ハ天保皆り改式ハ天保ヨり古キ頃ト
名物トシ粗不易ニ似テ今ニ至セス石
唄ニハ其弁自ラ趣走マトヲ叙繁絞シ
「ふけや川ぞゑろんよまぐれ井のふくろの顔見るくや
追書或書ニ隆達ニ頓智アリテ何ニモアレ顕ヲ
堂上ヘモ御ヘテ或年　大内ヘ召ル坂ニモ
ハニ吹ルボトナリ加ヤマテアリ止ケリ邸アリ
ふけよ山ぞゑろんよまぐれ中の上臈の顔見ル
唱哥ハ是ヲ聊ヤ作リ又ハ古ヘ有ケリ

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

ヨシコノ節　文政二四年比より行レ二都一ニ東ヲ呼ぶ
妾帰ニ真ス異事数多アり無長短左ニ記スヲ原歌ヲ
まくよこの度笠よそちよこうもりちどりをとられ世はちやの
ドバイツ節　ヨシコノ一変シテドバイツ節トナルし故ニ其節由此ニ依テ
僧ニ転ズ一妻ニテ妾帰ニ事ヲ悪情ス作レり今ニ至テ奏
セズ妾帰事ヲ是ヲ法哥ニテ粗不易ニ似タリ蓋曲節往々僧ニ妻ス
又ニ都ニ乗り
あきらめまくよどうあきらめまくあきらめられぬとあきらめ
トツチリトン節　三絃ノ初メニトツチリトント停歩ス故ニ名ト
テ異事数句アり皆無長短
あくと日ぞよ出世のかぐさまれと太閤久吉が
国ハ尾張の中もりで筑阿弥陀仏ハ猫仰妻ヲ日吉のごんぐんへ
必願をかけてそだいらいなどうたうてあんまりをうみあるとその名をもらうけて
日よし丸
大津絵節　予幼年ノ時ヨリ聞ク原事ニ因テ名ト
出ぞうけごぜりかうまりを結ひ法りをさんせ
ありがきあまをふじの花産なのみんなごよおワシく法けア
井バし

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用

江戸長唄　是モ幸坂筆ヨリ江戸ニテハ坐唄ト云ヒ坐唄トハ云ハス唯唄ト云フ用フル唄故ニ名ケスルナリ

其流流ノ頌詞ナケレ共元祖中村勘三郎ノ命名杵屋勘五郎ニ師事シ勘五郎ノ名人三ノ事時右ニ記スル者是ナリ

杵屋勘五郎ノ祖トス　小唄権左衛門　日八兵衛　其末流今ハ多シ

中山万太夫　始名中山佐衛門ト助ト云カゴヲ後者後唄ノ太夫トナリ婿ニ唄ノ名ヲ与フ

湖出　祖金四郎　二世市十郎　宝政十二年ニ死ス　近世大坂角芸者ニ唄ノ名人ハ此ノ時長唄ニ載世多シ

冨士田　祖ハヨリ祖トス　始名佐野川千蔵トナカゴヲ女形ヲ娘ニ伴ヒ来リ江戸ニ住ス

文化元年ニ流布スト此節今ノ何節十九段

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41　　ガラス使用

端唄　ハウタト割ス時々変化流布スル小唄ノ類ヲ云惣ジ名長唄ニ對スル名目故ヨリ之ヲ終トニ云ニ教授ヲ業トシ浄瑠璃ヲ業トセル者始ヲ師匠トナリ一家ヲナシ種々ノ小唄ノ類ト同ク名取ヨリ免許ヲ受ケル門人ヲ集メ行戸諸所ニ歌澤某ト云表札ヲ掛テ稽古所ヲ構フ此行嘉永ノ前更ニ無ク是亦今世一種遊民ノ業トナル

追書ス弐小唄ノ本ニ
歌澤大和大掾受領ス
郢曲ニ昧隆達遺響　己年六月

歌澤章句新改正所
歌澤熊六郎訂正
同　小蝶女　正律

上ニ云己年ハ安政四年ノ己年故恐クハ此大和大掾ノ二世ナルベシ　端唄家元ノ立始メ柄追考スベシ

名古屋節　尾州ニテ行ハル小唄ニシテ其始何ノ比ナルヲ知ラズ今ニ至リ具ニ西ノ物ニシテ熱田駅家ノ娼妓ハ三絃ニ合セテ専ラ唄ヘリ其唱歌ノ体ニ依リ宮ノ者節一對ノ様ナレバ其唱可ノ一ニヨリ

「こやを云ふて名古屋こえて　伊勢音次宮ノ者節一對ノ様
「愛ハ中ノ七里の渡や幸名命も
「今のあれこの明神ニ　遠ざかるとワーやみえをとりなをし
「思ひ入るとワーやみえをとりなをし
「松もろともに春を待ちのひてきハのうね

伊勢音頭　勢州古市ノ娼妓ヒ三絃ニ合セ唄ヒテ客ヲ餐ス又望ム人アレハ踊ラシ昔ハ常ニモ唄ヒ踊リ別ニ望ム客ニハ其楼ノ義妓来リ席ニ出連リテ踊リ巡ルシ

伊勢参宮名所尽会ニ古市ヲ問ハヽ山ノ内ニシテ川嵜音次流行ニテ是ヲイセ音ウト称シ都鄙ニ花街ノ唄ヒ物トハナリタレヒ此地ノ調ヘ普通ニ弊タリトス

紫一本ニ延宝五年ヒロヒニモ流行リ来リ此ノ頃ツヽニ琴ヲ鳴シイセ音ウヲ唄ヒ踊ルヲ専ラトセリ又深川浏嵜ノ女ヒニ唄ヒ踊ルヲ以テ深川仲町ノ娼妓シ

伊セ音ウノ歌ヲ載タル書ヒ八十七章アリ其内花八島　産衣東ナドヽ物ハ一行甘ヒニテ廿五六行アリ

此伊勢音ウ文句ハ麦草アルベケレヒ今ニ至リ彼地ニハ専ラ行ハレヽシ俚々三慶ヒテ乞ル者歟ノ

右ニ依リ古帝ノ遊女等妻妾席及ビ踊ノ時唄フモノハ三章向長リ斜ニ毎様異同アリ又京坂等ヨリ参宮ノ道中唄ト行ク小唄アリ且ツモ春頭ト云ハ是非欲得考スベシ其一ニヲ左ニ記

「大坂ヲ船出テヨリヤ　五造リ松ヲカケソヘヨイヤナアリヤリヤリヤソリヤナンデモセー

「伊勢ヘ七度熊野ヘ三度　愛宕ヘ月詣リヤアトコセーソレ庭ヨモノ清イハセデモ川原ノ清イハ

潮来節　常州行方郡潮来村ニ行レル曲節ニテ近世諸国ニ行レ唱哥多リ　節廻シ其唱哥ヲ傳ヘ知ル人ニ過ズ今世江戸ニテ婦女等適唱フモノ一章アリ左ニ記ス

「いこ出洲のおこもも井ふ　ゆめゆめくるとも志ゐ

童謡 齊明紀ニ所載 摩比羅（ヒラ）逓（ツ）矩（グ）都（ツ）能（ノ）倶（ク）例（レ）。陛（ベ）矩（グ）都（ツ）能（ノ）倶（ク）例（レ）。於（オ）社（サ）敞（ベ）。陛（ベ）矩（グ）都（ツ）能（ノ）倶（ク）例（レ）。能理（ノリ）歌理（カリ）鶏（ケ）。能理（ノリ）歌理（カリ）鶏（ケ）。○美和（ミワ）陛（ベ）騰（ノボ）能理（ノリ）歌理（カリ）鶏（ケ）甲（カフ）斐（ヒ）騰（ノボ）和知（ワチ）騰（ノボ）。美和（ミワ）陛（ベ）騰（ノボ）能理（ノリ）歌理（カリ）鶏（ケ）。陛（ベ）鳥（トリ）逓（ツ）矩（グ）都（ツ）能（ノ）倶（ク）例（レ）。

村田春海が此童謡考一書アリ可見シ

従三位草壁皇子薨時 哭（ネ）ぬくこゆき きんバのこう杉むら 土佐日記毎ニ唄 春ハ萌（モエ）てぞ杉をぎなくこう杉むら ぢるる杉むら杉むらこう杉むらこう杉むらこう

西かのに紅葉をかくのまつぐれよしものまつ
朱あまちかつばをの朱つぶ紅葉がくもまん
おうちのやまんけき

虎が千里の義さへ称すれバソウコレサ陣る一葉がまアまあうら及ニシグイ〳〵
右寛政十一年ニ流行 近年亦再行セリ

當亦京町大文字屋の抱ちやとその名い市ニ落とやまも
ちんなさるまものこと
或日宝暦中流布ストし今ニ俤へ唄フ

高い山から谷底へ
右何ノ比より唄ヒ初メ子文化七年生し初年ノ時より八十八夜トス今を称
ニ謂ヒコアリ江都ニ於ても寛政十一年ニ流布ストし

かんくのく。きうのまつ。きうりきう小んきう。
ちやいろ。にイろんさん。いんちんたんたんぴいろ〳〵
て。ちいろんさん。かろのんとん。ぴいろ〳〵ひいろ〳〵

右文化末年大坂堀江若木座ニ於テ唄ヒ始メテ踊り号ヲ唐人踊りと
ちやろんとうて名をはけてまず那波ろぶ
のろぶ名やといな エイ〳〵どろぶと踊ぬ
すきゞや たろやちんぐちろぶ

右文化末政文政ノ初比ニ江戸俳優阪東三津五郎
唄ヒ始メ江都ニ行ル

沖よりへろハ肥後様の又それく船ハ紀伊
ちろちやコリやまるよろい

是モ文化比於行ル

一回一のサ子富士山。玉はぎきの八千代まで
右文政中大坂角ノ芝居ニテ唄ヒ始メ市中ニ行ル江戸ニハ傳へ行ズ
脊戸がけちけら留がせどうへ。かねちやとるまるらのそ。
てまこまよろ〳〵ハヨイ〳〵
右大坂より行ルニ江戸ニモ傳へ行ル文政十年比

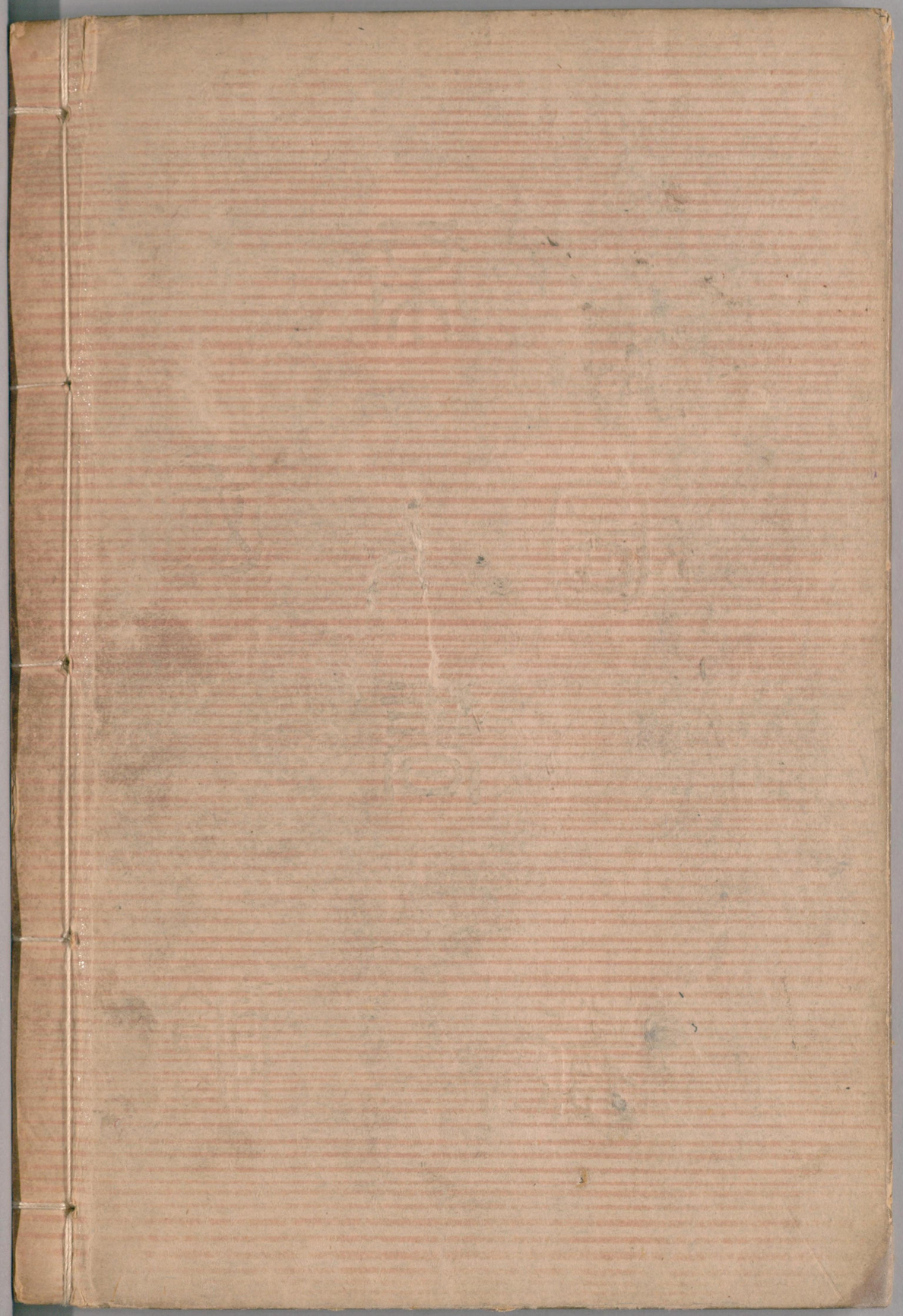
国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41
ガラス使用

可愛がるまで竹のつもりなれてうたれて梅のたがにかけられて
右文政ノ末諸国ニ行ル
一夜泊りの道者にほれて多手ノ行まで
右日ナニ年一二都ニ行ル
あまをまちくく蚊屋のそと蚊ふくれ七つの
かねやせぬこそや かねやせぬ
右江戸ハ天保二年京坂ハ同五年ニ行ル
いくたくいてもいてもくれず独りねのくや恨めしや
右天保五年ニ都ニ行ル
花のえんきよ島エイヤ糸のかくをはくけてやとりやとんとやとんとや又
右日六年此ニ都ニ行ル
いれてくろくと乳へかんで猪の目トテくくとたゝいて
右天保中大坂ニ行ルト雖モ市中丁児ノ唄ヒシ 官コリ令ニテ禁止ス
口ーぶおのれと三囲一の富士のえくるまはのれどとけぬ浮名たゝりくる
たゝうようき名ぞえくちんちんでかいわど。ちんといのちも共に乗
まくさのナ
日七年京坂ニ行ル江戸ハ都ノ唄奇ヲ異ニス
口ーぶ号ひと三国一の富士の深山のえくゆきはのりやはるとやとけのぜん
泊名たりやたゝうようき名あんなお方といつまでもかぶも号乳おまくさのナ
日ハ後ノ江戸ニ行ル

前文四年もゆのでなにかなほけて
右天保十二年大坂ニ行ル
坂にありくや浦安の坂上ちゃんてあゝたり
右ハ代神江戸ニ行ル此ニ句甚単クシテ記スニ堪ズ
妻のまどかくこんちゃんやこんちゃんやこんちゃんや

国立国会図書館　タイトル『守貞謾稿』請求記号 寄別13-41

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『守貞謾稿』　請求記号　寄別13-41

ガラス使用